

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：青少年対策費

事業名 姉妹県青少年ふれあい事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

環境生活部 私学振興・青少年課 青少年係 電話番号：058-272-1111 (内 2428)

E-mail：c11151@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 1,298千円 (前年度予算額：1,298千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	1,298	0	0	0	0	0	200	0	1,098
要求額	1,298	0	0	0	0	0	200	0	1,098
決定額	1,298	0	0	0	0	0	200	0	1,098

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

本県と鹿児島県は、昭和46年7月に姉妹県盟約を締結して以来、人的交流をはじめ観光・農業などの産業分野やスポーツ・防災など幅広い分野での交流を実施してきた。

そのなかで、昭和47年から両県の青少年の訪問交流を実施しており、次代を担う人材が歴史と自然を通して先人の残した偉業を学ぶことで、郷土建設への意欲を高めるとともに、協調性、自立性を育成している。

(2) 事業内容

【隔年訪問】本県と鹿児島県の青少年が1年交代で訪問する。

- 令和元年度は、鹿児島県青少年21名が岐阜県を訪問し、岐阜県青少年19名とともに、薩摩義士の史跡の視察やグループ討議等の交流事業を実施。令和2年度は新型コロナウイルスの影響により中止。
- 本事業に参加した青年が中心となっている民間の交流団体（岐阜県「さつまの会」、鹿児島県「美濃の会」）が本事業及び事前研修の運営を支援。

(3) 県負担・補助率の考え方

	岐阜県負担	岐阜県参加者 自己負担 (岐阜県収入)	鹿児島県負担	鹿児島県参加者 自己負担 (鹿児島県収入)
鹿児島県訪問年	往復交通費	1万円×20名	滞在経費全て	1万円×20名
岐阜県訪問年	滞在経費全て	1万円×20名	往復交通費	1万円×20名

R3年度は「鹿児島県訪問年」(岐阜県参加者が鹿児島県を訪問)

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
消耗品費	60	県産品PR費等
旅費	109	引率者旅費等
委託料	1,099	参加者移動費等
使用料及び賃借料	30	会議室借上
合計	1,298	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

岐阜県青少年健全育成計画

事業評価調査書（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

本県と姉妹県盟約を締結している鹿児島県との間で青少年の訪問交流を実施することで、宝暦治水などによる両県との関わりについて次代を担う若者の理解、認識を深め、後世に渡り両県の友好関係を継続していく。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値 (前々年度末時点)	目標	達成率
	(H)	(H)	(H)	(H)	(H)	%
	(H)	(H)	(H)	(H)	(H)	%

○指標を設定することができない場合の理由

鹿児島県との交流が目的であるため、指標を設定することになじまないため。

（令和元年度の取組）※令和2年度は新型コロナウイルスの影響により中止。

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）

【第48回姉妹県青少年ふれあい事業】

（令和元年7月26日～29日 3泊4日）

鹿児島県青年（18～29歳）8名、少年（中高生）13名が本県を訪問

[プログラム] ・岐阜県副知事表敬訪問

・薩摩義士の史跡の視察

・青少年によるグループ討議

・史跡等見学（長良川鶉飼、白川郷）

[延べ参加者] 本県 1,646人

（前年度の成果）

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果

県の代表として地域、年齢を超えた交流を行うことで、コミュニケーション能力や自立性、責任感を養うことができた。また事前研修や本研修を通じて、両県の歴史や文化についてより理解するきっかけとなった。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い 	
(評価) ○	姉妹県盟約による友好交流を促進するとともに、次代の交流人材の育成を推進するため、必要性が高い。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) ○	参加者からは、他県、異年齢間の交流を通じ、知見が広がったなどの意見が寄せられた。また、参加した青少年の自主性・協調性が養われ、青少年の健全育成にも大きな効果が得られている。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある 	
(評価) ○	青年、少年の訪問を合同に実施することや、両県を1年ごとに交互に訪問するなど、効率化を図っている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 姉妹県交流を両県民に広く認識するよう、広く事業について広報するとともに、幅広い地域、層から参加者を募る必要がある。

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 引き続き、青少年リーダーを育成するため、両県の歴史、文化、施策などを学び、今後の人生の糧となるよう交流事業の内容を充実していくとともに、姉妹県交流が本事業と他の交流事業を連携し、両縣市町村や民間の交流に進展させていく。
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【 課 】
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	